

# 経 済 Topics

## ■大分県内の最新経済動向について

大分県内の経済は「緩やかに持ち直して」います。小売店販売や乗用車販売、観光など消費は緩やかに持ち直しています。雇用情勢も、有効求人倍率が上昇基調にあります。

## 今回のテーマ

## 大分トリニータに関するアンケート調査

### ■はじめに

当研究所では、県内の大分銀行の窓口に来店されたお客さまを対象に毎年大分トリニータに関するアンケートを実施しています。今回は大分トリニータの2022年シーズンの評価や、2023年シーズンに対する期待などについて調査しました。そのアンケート調査の結果についてご紹介します。

### ■2022年シーズンの評価について

2022年シーズンの活躍度を5点満点で尋ねたところ、活躍度の平均点は3.2点となりました。2022年シーズンはJ2で活躍し最終順位が5位となり、J1参入プレーオフへの出場を決めたことが一定の評価につながったと考えられます。しかし、J1に昇格が決まった2018年シーズンやJ1で活躍していた2019年から2021年シーズンと比べて平均点は下がりました。

### ■ホームゲームの来場者数について

2022年シーズンのリーグ戦のホームゲームの総入場者数は138,986人と2021年シーズンから約1万人増加しました。

2022年シーズンに会場で1試合以上観戦した人に対してその理由を尋ねると、「トリニータのサポーターだから」が最も多く、次いで「家族・友人・知人に誘われたから」を理由とする人が多い結果となりました。20代以下や女性で「家族・友人・知人に誘われたから」を理由とする人が最も多くなりました。

一方で観戦に行かなかった人に対してその理由を尋ねると、「Jリーグ自体に興味がないから」が約4割と最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症が収束していないから」を理由に挙げた人が多い結果となりました。「新型コロナウイルス感染症が収束していないから」を理由に挙げた人の割合は前回調査より低下しており、感染症の流行を理由に会場での観戦を控える人は減ってきているようです。

## ■2023年シーズンの観戦意向について

2023年シーズンの観戦意向を尋ねたところ、「行くつもりはない」が4割を超して最も多く、「1試合は行きたい」が約3割、「対戦相手によっては行きたい」が約2割と続きました。1試合以上観戦したいと回答した人の割合について、2019年から2022年シーズンの4年間と比較して大きな変化はないものの最も少なくなりました。新型コロナウイルス感染症の流行やJ2への降格などから少し観戦意向の低下がみられます。

## ■観戦客数増加のためには

2023年シーズンは観戦に行くつもりがないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば観戦に行くかを尋ねたところ、「家族・友人・知人に誘われたら」が3割を超して最も多く、次いで「招待チケットや割引チケットをもらったら」「新型コロナウイルス感染症が収束したら」の順になりました。「家族・友人・知人に誘われたら」や「招待チケットや割引チケットをもらったら」は毎年上位を占めています。2022年シーズンのホームゲームで入場者数が多かった上位5試合のうち、4試合が県民や大分市民を抽選で無料招待した日でした。2023年のシーズンパスの特典として、対象の試合と一緒に観戦に行く人のチケットを1枚発券できる「お誘いチケット」が準備されています。こうした特典は普段会場で観戦しない人が観戦に行くきっかけづくりに適しているといえそうです。

## ■2023年シーズンの大分トリニータへの期待について

2023年シーズンの大分トリニータにどのくらい活躍してほしいか尋ねたところ、J1自動昇格圏内である「2位以内」に入ってほしいという回答が最も多く、次いで「優勝」を選んだ人が多い結果となりました。優勝及び2位以内にはいってほしいという回答は8割以上で、多くの県民が今年こそJ1復帰を強く望んでいることがわかりました。

## ■おわりに

2022年シーズンのトリニータは下平新監督を迎え、チームスローガン「挑戦」のもと1年でJ1復帰を目指し戦いました。J1参入プレーオフに出場しましたが、2回戦に進出することができず、J1へ復帰とはなりませんでした。

2023年シーズンは新たに選手が加入し、2022年シーズンより平均年齢が2歳若返ったフレッシュなメンバーでJ1復帰に向け戦います。

また、トリニータは2023年シーズン全てのホームゲームで観客動員1万人を目標に掲げています。目標を達成するために、チームでの練習の様子を解説した動画をSNSにアップする、企業とのコラボ商品を発売する、そして選手たちがチラシを配布しスタジアムでの観戦を呼び掛けるなどの取り組みを行っています。観客者数の増加にぜひ期待したいです。

2023年のチームスローガン「繋（つなぐ）」のもと、クラブや地域、選手、スタッフ、サポーターが団結してJ1復帰に向けて戦い抜いてほしいです。

（提供：(株)大銀経済経営研究所）